

# 進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

## II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

### 《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 基本リテラシーとしての学力に優れた学生を確保する。	→入学人員対募集人員の比率。競合する大学の学部との勝敗率。	B	B			
2. 国際文化吸収、日本文化発信のできる学生を確保するため、A0入試、指定校入試で学力担保を重視する。	→A0入試、指定校入試で入ってくる学生について英語の一定の評定平均値を確保。	B	B			
3. A0入試において社会性を持つ学生を選抜することを重視する。	→社会貢献、人間関係力の表れとなるNPO、ボランティア活動、学校運営への参加者のA0入試での合格者数。	B	B			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

## 《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目5.0.1	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
	(方針の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 方針を設定している <input type="radio"/> 方針は設定していない
	(明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 明示している <input type="radio"/> 明示していない
	(受け入れ方針) 本学部の教育理念・目的は、“Mastery for Service (奉仕のための練達)”というスクールモットーに基づいて、「真に創造的な能力を有するビジネス・パーソン」を育成することにある。すなわち、幅広い関心と鋭い問題意識を有し、さまざまな領域でその能力を十分に発揮できる人材を、社会に送り出すことにある。本学部は、この教育理念・目的に基づき、人間性を向上させる意欲に満ちあふれた、多様な適性と能力を有する学生を受け入れたい。
小項目5.0.2	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
	(説明) すべての入試について入試要項を公表し、各入試に対応する委員会を設けて公正な実施に努めている。
小項目5.0.3	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
	(説明) 予測を伴っており、乖離が起きる可能性はあるが、これまでのところ数値上は、きわめて適正な状況にある。
小項目5.0.4	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 各入試に対応する委員会ならびに入試検討委員会で検証が行われ、必要に応じて教授会で議論している。
その他	

## 《評価指標データ》

(特定指標データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【商学部】		単位	2007	2008	2009	2010	2011	備考
指標1	入学定員	名	650	650	650	650	650	
指標2	志願者総数	人	7,949	7,979	6,823	6,285	5,666	
指標3	合格者数	人	2,037	1,911	1,517	1,613	1,580	
指標4	入学者数	人	706	669	637	654	681	
指標5	志願者倍率	倍	12.2	12.3	10.5	9.7	8.7	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.05	1.07	1.05	1.03	1.02	入学者数÷入学定員
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	57.1%	49.8%	48.7%	46.3%	49.8%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	
指標9	在籍学生数	人	2,884	2,894	2,840	2,803	2,781	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	110.9%	111.3%	109.2%	107.8%	107.0%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	人	(0)	(0)	(4)	(2)	(3)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	人	23	31	35	11		

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入

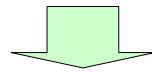
(その他の指標データ)  
 入試形態別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合【大学基礎データ】  
 地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数と割合  
 科目等履修者の入学者数  
 聴講生の入学者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎**効果が上がっている事項** ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】**効果が上がっている事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	入試の実施はきわめて適正・適切に行われている。



【次年度に向けた方策(1)】**伸長させるための方策**

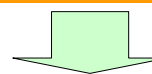
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	

◎**改善すべき事項** ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】**改善すべき事項** 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	一部の入試(例:依頼校入試)を除いて、学生の入学後の追跡調査の状況が把握されていないので、入試の効果についての検証が不十分である。



【次年度に向けた方策(2)】**改善方策**

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目5.0.1	
小項目5.0.2	
☆小項目5.0.3	
小項目5.0.4	
その他	追跡調査の状況の周知

◎**自由記述**

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

☆ その他 (自由記述)	
-----------------	--

### Ⅲ. 学内第三者評価

#### ＜評価専門委員会の評価＞

##### 【学外委員】

○入試の多様化の取り組みが進められている点が評価されますが、一方で一般入試比率が全学目標の6割を切って低下しています。今後は追跡調査などを活用して、これらの施策の効果検証を進めることが求められます。

##### 【学内委員】

○ここ数年、僅かであるが一般入試での入学者が50%を割っています。一般入試以外での入学者の割合がかなり高くなっていますが、これは学部の学生受け入れの方針に見合っているのでしょうか。

○入試形態ごとにアドミッションポリシーを設定しているのであれば、具体的に説明をお願いします。改善すべき事項で「その他」をあげるのであれば、現状説明の項で述べておく必要があるでしょう。また、改善方策の「追跡調査の状況の周知」というのはどういう意味でしょうか。

○アドミッションポリシーを明示され、適切に入試を実施し、定員管理を行っていることが伺えますが、自己点検・評価は、本学の状況や考え方を社会にわかり易く説明する役割もあります。また、認証評価につなげることも視野に置く必要があります。加えて、本シートを見ればある程度のことわかる必要があります。そのためにも、全小項目についてももう少し詳しく現状説明されることを希望します。

○明示については、大学基準協会は基盤評価を「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」としています。これに沿った説明が求められます。昨年度、追加記述されていますが、それを利用された説明もお考えいただければどうでしょうか。

○小項目5.0.2については、大学基準協会は基盤評価を「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」としています。これに沿った説明を加えていただければと思います。効果が上がっている事項のその他に記述されている「適正、適切」を説明する必要があります。

○小項目5.0.3については、各入試形態別の状況はどうでしょうか。

○昨年度、伸長させるための方策や改善方策に示されたことに触れる、その後の対応について記述することでPDCAサイクルが機能しているか確認できます。

##### 【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

##### ○小項目5.0.1

基盤評価：「理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること」「公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること」

##### ○小項目5.0.2

基盤評価：「学生募集、入学者選抜の方法が、受験生に対して公正な機会を保障し、かつ大学教育を受けるための能力・適性等を適切に判定するものであること」

##### ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である（※）」

##### ※【定員超過の場合の提言指針】

＜実験・実習を伴う分野(心理学、社会福祉学に関する分野を含む)＞

1.20以上：努力課題

1.25以上：改善勧告

＜医学・歯学＞

1.00以上：努力課題

1.05以上：改善勧告

＜上記以外の分野＞

1.25以上：努力課題

1.30以上：改善勧告

＜未完成学部＞

いわゆる「届出設置」の場合は、前身となる学科等の状況を勘案するなど、条件に応じて判断する。

##### ※【定員未充足の場合の提言指針】

＜全て＞

0.9未満：努力課題

0.8未満：改善勧告

＜未完成学部＞

定員超過の場合の提言指針に準じる。

「【学士】学部における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

##### ※【定員超過の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる

（なお、定員の超過が留年者数の増加によるものである場合は、その事情を考慮する）

##### ※【定員未充足の場合の提言指針】

入学定員に対する入学者数比率に関する提言指針（上記）に準ずる。

## ○小項目5.0.3

基盤評価：「【学士】学部における編入学定員に対する在籍学生数比率が1.00である（※）」

## ※【定員超過の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

1.30以上：努力課題

《未完成学部》

1.30以上：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

## ※【定員未充足の場合の提言指針】

《未完成学部を除く全て》

0.7未満：努力課題

《未完成学部》

0.7未満：努力課題としては提言しない。ただし、概評において指摘する。

「【修士・博士・専門職学位課程】部局化された大学院研究科や独立大学院などにおいて、在籍学生数比率が1.00である」

## ○小項目5.0.4

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、学生の受け入れの適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

## ○小項目5.0.1～5.0.3

達成度評価：「学生募集、選抜の実施状況等は、公正・適切なものである。（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のこと明らかであるかに留意する。）

- ・学生の受け入れ方針と、学生募集、選抜の方法等の整合性
- ・学生の受け入れを適切に行うための必要な体制の整備

#### IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・入試要項はもちろんのことホームページによって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表している。発信しているアドミッションポリシーについて、一般入試は、各々科目が異なるものの、“Mastery for Service”の精神を社会のさまざまな分野で活かし、それぞれが重要な役割を担って活躍することを通して、今日の商学部のよき伝統であるグローバル化の進展が著しい激動の社会にあって、常に問題の本質を問い、論理的考察力と多面的視点から物事を的確に判断する能力を持つ者の入学を発信している。各種入試については、指定校推薦入試は、学業と課外活動に優れた実績を持つ者を対象とする。スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験は、スポーツ活動において優れ、学業と課外活動との両立に意欲を持つ者を対象とする。AO入試は、創造的、積極的な学習姿勢、真に創造的な能力を有する者を対象とする。内訳は、・文化、芸術活動、・高度な資格、・事業経営を志向する者、・論文による自己表現、・社会人。帰国生徒入試は、海外での多様な経験を持つ者を対象とする。外国人留学生入試は、世界各国・地域において多様な経験を持つ者を対象とする。

・入学者に対する一般入試定員の比率低下の帰結については、学生の学力低下を避けるため、比重の高まった各種入試による入学者の質を保証する努力をしている。具体的には、指定校入学に関して、随時成績監視を通じて行い、入試検討委員会によって入試の有り方を練り直すと共に、特に提携校については質の底上げに向かうよう大学を通じて継続して申し入れている。

☆ 入学者に対する成績の追跡調査については、指定校入学を除いて必ずしも十分には行なわれていないし、結果の周知も十分ではない。この点、入試時点では、アドミッションポリシーとの関係で適切な入試方法が取られてはいるが、窓口別の追跡調査とその結果の学部構成員へのフィードバックによる教育への反映が課題である。指定校入学についての追跡はこの1年で殆ど達成されている。

・適切な定員設定の下での学生の受け入れと、在籍学生数の収容定員に基づく適正管理については、まずここ3年間で在籍学生数の定員に対する比率は、109.2%、107.8%、107.0%と順調に100%に近付き、これは、入試形態別に見ると、歩留り予測を伴う一般入試も適正範囲内の合格者を出し、特別入試では、定員と合格者、入学者の割合はほぼ100%を維持していることに基づく。

・発信されたアドミッションポリシー毎に適切に入試を行っている。一般入試では、基本リテラシーを確保するいろいろな入試形態を採用していて、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験、AO入試、帰国生徒入試、外国人留学生入試については、学力のみならず、スポーツ、課外活動の能力を論文並びに面接で見極め、卒業後の社会性を付ける為の能力を見ている。提携校、協定校、指定校入試においては、口頭試問のみならず、随時受け入れ高校への在籍生の現状とアドミッションポリシーの連絡ないし警告をして、次年度以降の入学者の質の改善に努力している。

・個別の改善への努力について、従来型の関学独自方式に加えて関学数学併用型入試を2011年度入試から実施に移す。理科系志向の国立型の受験生の併願から優秀な学生の志願を期待しているが、結果を注目したい。また、入試そのものではないが、スポーツ能力に優れた者を対象とした入学試験では、全学の流れに乗りながら、英語並びに国語の入学前教育を実施し、入学者の質の担保に努める。